ぜひ一言市長から、今後そういうタブレット導入に関して積極的にされるのかどうか、研究も含めまして、ちょっとだけ考え方を聞かせてください。

○小関勝助議長　内谷重治市長、簡潔にお願いします。

○内谷重治市長　ぜひ長井市の場合も先進地の事例を学びまして、できるだけ早く、教育委員会とも相談して、導入すべきだというふうに考えております。

梅津善之議員の質問

○小関勝助議長　次に、順位11番、議席番号２番、梅津善之議員。

（２番梅津善之議員登壇）

○２番　梅津善之議員　おはようございます。12月定例会最後の一般質問になりました。大きく２点質問しておりますので、明確なご答弁をいただきますようお願い申し上げます。

何といってもきょうは天気が非常によくて、議会を外でしたらいいんではないかなんて思っているのは私だけかもしれませんけども、ぜひ市民に見えるような議会にしてまいりたいと思っております。

まず、１点目は、特色ある農業政策についてです。

この定例会でも多くの方が触れられておりますが、米の政策が大きく転換しようとしております。転換に伴い、我が長井の米をつくる農家がさまざまな形で心を痛めております。規模拡大を目指している方、複合経営を考えておられる方、これから始めようとしている方、また65歳を過ぎても担い手として頑張っている方などなど、さまざまな思いを持って国の政策を注目していると思います。

まずは、ご飯の話を少しさせていただきたいと思います。

ご飯は、ご飯１杯分のカロリーは252キロカロリーです。糖質、たんぱく質、脂質、ビタミンＢ１・Ｂ２、カルシウム、鉄、マグネシウム、亜鉛、食物繊維といった栄養素がたくさん含まれております。これを身近な植物に置きかえると、プチトマト３個分のカルシウム、トウモロコシ３分の１本分の鉄、サヤエンドウ12枚分のビタミンＢ、そしてレタス１枚分の食物繊維などです。最近問題視されているマグネシウムや亜鉛といったミネラルも、それぞれグリーンアスパラガス５本分、亜鉛はホウレンソウ２分の１把分もあり、体内の細胞や血管の若さを保つ老化防止のビタミンであるビタミンＥは、発芽する食品に多く、ご飯にも小さじ８杯分に匹敵する量が含まれております。脂質はエネルギー源として重要であり、肌の潤いを保ったりする上でも必要ですが、とり過ぎに気をつけなければならない、肥満や成人病の原因にもなります。高カロリーになりがちな現代の食生活では、十分な脂質がおかずにとり入れられるので、主食ぐらいは低脂肪なものにしたいもの。その点、お茶わん１杯分のご飯のほうがパン１枚を食べるより低カロリー。しかもパンはバターやマーガリンなどを塗ったりする脂っこい料理のほうが合うことになることを考えると、ご飯を中心とした食事のほうがダイエットにも適していると言えます。私が話してもなかなか説得力がないわけでございますけども。

そんな中で、私が農業を始めるきっかけとなったことは、やはり両親の背中を見て育ったからだと思っております。わずか1.5ヘクタールの田んぼと、50アールぐらいの転作田と、10頭の痩せている牛を細々と農家を営んでいた両親を見て、おまえは農業をするなといって育ちましたが、手伝いは一生懸命やってきたと思っております。

ちょうど今ごろの季節だったと思います。私が小さいころ、外で両親がシュンギクの葉を摘み取って袋に入れて市場に毎日のように出荷をしておりました。凍えるような寒さで、なかなか作業が進まないのを目にしていたことを思い出します。そんな中、出荷したばかりの朝、市場から電話があり、100把注文だからとってくださいということがございました。ちらちら雪の舞う中で、両親は外に出て一生懸命シュンギクを摘んで、お昼前に出荷に行きました。父ちゃん、このシュンギク何ぼやと後から聞いたら、１把20円だったと。今でもその光景を忘れることができません。100把摘んでも2,000円にしかならなかったシュンギクの摘み。それでも両親は喜んで出荷してまいりました。次の日、母とスーパーに買い物に行けば、私のうちのシュンギクが地元のスーパーで１把150円で売られておりました。そんな思いを、非常に、農家って大変だなと思ったことが今でも忘れられなく思っております。

国の政策がどうであろうと、50年続いた減反政策がなくなろうと、戸別所得補償のお金が減らされようと、農産物で採算を合わせられる、農産物で販売して生活ができる農業をつくるべきだと私は思っております。

１点目の質問の、レインボープランを中心とした循環の農業についてです。

９月定例会でも、堆肥の中身の話をさせていただきました。今度は、できたものを田畑で散布する仕組みが必要だと考えております。トラックで田んぼや畑まで運び、マニュアスプレッダーなどを持っている畜産農家など協力して田んぼに振る。これを市の事業としてやることはできないでしょうか。レインボープランの農産物がなかなか出てこない現状を踏まえ、田畑に散布するシステムを市で持つことはいかがでしょうか。ぜひ検討していただきたいものだと思います。

さらには、畜産農家も大きく巻き込んでいただきまして、同じようなシステムで堆肥を田畑に返し、有機農産物の足腰の強い農業をつくることはできないでしょうか。ぜひ検討いただきたいものだと思います。

続いて、小さな２番目の質問です。稲作を特徴あるものにできないかということです。

大自然に恵まれた野川、白川、逆川の清流でつくられた米、さらに農薬や化学肥料をできるだけ少なくつくられた減農薬米など、今こそここ長井をアピールするには最適の時期だと思っております。この自然環境を全国の皆さんに知っていただくという面では、環境とものづくりをＰＲする一番いい機会だと思っております。ぜひこれをアピールしていったらいかがでしょうか。

３番目は、米づくりそのものを観光に生かせないかというものです。

例えば、春先の種まきから苗の管理、田起こし、代かき、田植え、草刈り、堀立、稲刈り、もみすりなどなど、半年を通して時折々に長井の稲作の作業に体験に来ていただく。この作業は非常に大変なものとは思いますけども、米づくり、米というものがどうできるかわからない人がたくさんいらっしゃいます。ぜひこの機会に長井で体験農業できるシステムをつくれたらいいかと思います。さらには、さなぶりやきっかけ、収穫祭などの折々の行事にも参加していただき、長井の米をお土産に、そして長井のファンになっていただけるような稲作体験型農業をできるのではないでしょうか。観光振興課長にお聞きします。

４番目の質問です。今後の土地改良事業の進め方でございます。

まずは、下九野本の土地改良事業が来年度で本換地を目指し、現在も進行中です。国、県はもとより、長井市からも大変お世話になりました。深く感謝申し上げたいと思います。ありが

とうございました。

さて、これからの土地改良事業でございます。

もはや30年以上も前になった現在土地改良済みの土地は、水路はもうぼろぼろになっておりますし、担い手の数も減っております。地域の意向が反映された土地改良事業は急務と思われます。しかし、面的集積はもとより、農産物を育てていくという考え方、米プラスアルファから、さらに強い担い手もあわせて育成していくことが急務と考えられますが、市長、いかがでしょうか。

続いて、大きな２番目です。エコミュージアムという考え方についてです。

これは、11月11日の市議会の意見交換会の席で参加者の方からぜひ調べてほしいとの意見がありました。私も何のことか全くわかりませんでしたので、少し調べてまいりました。エコとは生態学、ミュージアムとは博物館をつなぎ合わせた造語であるということです。ある一定の地域において、住民の参加によって、その地域で受け継がれている自然や文化、生活様式を含めた環境を総体として、継続的な持続可能な方法で研究、保存、展示、活用していくという考え方だそうです。

近くでは、朝日町で取り組まれているようです。朝日町では、町全体を博物館に見立てた観光事業に活用されているようです。

私が考えている長井市として、中小企業のそれぞれの持っている技術を出し合って、何か新しいものづくりのヒントになるものはないかというものです。

長井はものづくりのまちであります。1920年にグンゼ製糸が、1940年には東京芝浦電気、後のマルコン電子、現在のケミコン山形です。1946年には現在の協同薬品工業が操業しております。現在もその他にもたくさんの中小企業が長井市で製造業を営まれております。それぞれの分野や企業の得意とするところをつなぎ合わせ、新たな商品を生み出すことができないでしょうか。そんな可能性がたくさんあると思います。いかがですか。それを業種を超えて、農業や工業、商業、観光などに生かすことはたくさんあると思います。長井市自体が旗振り役となって、その音頭をとっていただきたいものだと思っております。地元には長井工業や工科大学などもありますし、今こそ長井市の底力を結集してみたいものです。大きな夢と希望を託して、壇上よりの質問といたします。ありがとうございました。（拍手）

○小関勝助議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　梅津善之議員から大きく２点、いろいろご提言などをいただきました。

まず最初に、１点目の特色のある農業政策について、私のほうからは、（４）の今後の土地改良事業の考え方はということについてお答えを申し上げます。

土地改良事業等における課題といたしましては、大きく３点ほどあるかというふうに思っております。

まず、１点目は、将来の農業の担い手をどう確保していくのかということ、２点目が、あわせて農地、農業用施設をどのようにして維持管理していくのかということ、３点目には、安定した農業農家経営を図るため、生産コストの低減を中心とした経営の効率化や収益性を確保するための高付加価値化、産地化等をどう図っていくのかということが上げられると思います。

現在、国の補助事業といたしまして、基盤整備に係る経営体育成基盤整備事業や施設の長寿命のためのストックマネジメント事業など、各種の土地改良事業が制度化されておりますが、いずれも先ほど申し上げた課題について解決をする手法が網羅されております。特に基盤整備の分野では、経営コスト低減のための農地の大区画化、担い手の確保や経営安定のための農地の集約、高付加価値作物の生産につながる畑地

化が図れる経営体育成基盤整備事業については、現在県営で施工中の下九野本地区をはじめ、今後、野川左岸地区において計画をされているところでございます。

市の農業が持続、発展していくためには、こういった事業を積極的に取り入れながら、課題解決も含めて取り組んでまいりたいと思いますが、県営事業に対する市負担の限度もございますので、土地改良区等との調整を図りながら、市全体の進め方を検討し、計画的に進めてまいりたいというふうに考えているところです。

また、特色のある収益の上がる作物についても、現在農家の方々のご努力により目を伸ばしつつありますが、なお一層生産の拡大や販路拡大についても検討していかなければならないというふうに考えているところです。

それ以外のご質問、ご提言については、農林課長、観光振興課長のほうから答弁いたさせます。

２点目のエコミュージアムという考え方についてということでございます。

梅津議員からは、議会報告会の中で市民の方からそういったご提言なのかどうかですけども、話があったということですが、梅津議員がおっしゃったように、この辺では朝日町がもう多分10年以上前からそういった発想でなさっていると。俗にエコミュージアムと言われているのは、中山間地の古い民家があったり、あるいは棚田とか、お寺とか、そういった地域の資源ですね。それから、これから伊佐沢地区でも取り組もうとしている、里山をうまく生かした、昔は炭焼き小屋とかいろいろあったようですけども、そういった市民の皆様というか、そこに住んでおられる住民の皆様の生活そのものを一つの資源として、ミュージアムというのは、博物館については、学芸員の人たちが博物館に行きますといろいろ教えてくださるわけですけども、このエコミュージアムの場合は、地域の住民の皆さんが外からいらした方、あるいはその地域内でも知らない方に、いろいろいわれや、いかに大切な資源だかと、ここではこういうふうにして風習とか伝統を守りながら暮らしているということをＰＲするということだと思いますが、それによって地域全体が自分たちの地域について誇りを持てる、また外から来た人たちがそれについて非常に関心を持っていろんな交流を進めていこうという考え方だと思いますが、そういった中で、改めて議員からもありましたように、エコミュージアムというのは、地域の資源や自然や文化、生活の風習等を現場で保存し、博物館として発信する、いわゆる地域づくり活動を指しているということだと思います。

この活動の延長線上で、世代を超えて子供たちの教育的効果、地域の人づくりや人材発掘、さらに交流人口の増加など、地域の活性化が期待されています。その活動の実態は、博物館というイメージですので、説明役である学芸員という立場の人を地元の方がみずから務め、訪れた方と交流することが中心になります。

長井市においても、レインボープランやひなた村、ぼくらの文楽や大田区との交流事業、さらにはことし行われた長井文化回廊やまちめぐり美術館等で地域の資源を活用し、市民が案内役となった多くの活動が既に展開されております。

さらに、地場産業の連携、農商工の連携による地域の経済活動については、長井市の事例でも、その多くは経済活動への発展を期待しているものです。企業等が連携した商品開発や物販販売等につながっている例もあり、長井市ではこうした考え方や実績が既にあるというふうに思っております。これをいかに拡大していくかということになりますと、地元の実践者がいかにふえるかが課題であると考えております。

こうした場面での行政の役割は、議員からは先導役をやったらいいんじゃないかというご提

言でございましたが、やっぱり行政の役割は、みずからが実践するとかは不可能ですから、そういった実践者にはなり得ないわけですから、市民や企業の力を引き出し、また後押しするということをどのようにするのかということが非常に難しいと思います。

そういった意味で言えば、とにかくそういった人材を育成するといったら失礼ですけども、支援するという意味で、ながい市民未来塾であったり、あとはものづくりマイスター塾とかなどもずっと続けてやっているわけですね。結局、幾ら行政が旗を振っても、そのご本人そのものがやる気がないと、これは不可能なわけです。ですから、いかにして人材を育成するかということがまず基本にあるんだと思っています。

例えば、ものづくりの分野ですと、私どもいろいろ進めている大田区の下町ボブスレーというプロジェクト、これは行政なんか入っていないですよね。例えばものづくりだったらものづくりで、やっぱりみんな交流しているんですよね。その中で、なかなか大変だけども、我々の技術を見せてやろうじゃないかと。みんなそれぞれの技術を結集すればいろんなことができるよということで、その大田区でやった下町のボブスレーであったり、ついこの間は江戸っ子１号、２号とか、そういったロケット技術とか、これらもやっぱり皆さん誇りを持っているはずなんですね、ものづくりなさっている方は。はずだって言い方は失礼ですね、誇りを持っていますね。

ですから、そういった中で、接着剤として、私ども行政であったり、あるいは商工会議所であったり、農協等の団体であったり、そういったところがうまく間の接着剤として結びつけることはしていかなきゃいけないと思っていますし、実際のところ、今一生懸命やっているつもりなんですね。

ですから、どこが悪いのかというところをむしろご指摘をいただければ、そういった取り組みはしているんですが、やっぱりなかなかうまくいかないところがあると思っています。

例えば、これは後ほど観光振興課長も、商工振興課長も答弁いたしますが、米づくりを例えば観光に生かせないのか、こういった取り組みはもう全国でやっているわけですね。一番その成功して、教育旅行としてもう既に10年来定着しているのは長野県の飯田市あたりで、200万人ぐらい来ているわけですね。それは、行政の努力ももちろんかかわりもさせていただいているとは思いますが、何といっても農家自身の意識なんですね。受け入れ先がなければ、幾ら行政が旗を振ってもだめですし、受け入れ先を行政が全部やるということはなかなか難しいと思いますので、その辺あたりをぜひ梅津議員から、先ほど壇上でいろいろご提言なさった中でも、本当に農家のいいところも悪いところも厳しいところも喜びもご存じなわけですから、そこをやっぱり農家のほうの指導者が、もう既に経営体として法人化されている、たくさんありますので、農業の６次産業化もそうですよね。もう企業的経営でやっているわけですから、その辺のところはぜひ期待したいなというふうに思います。

また、接着剤的な行政側のかかわりとして、例えば長井市ではまちづくり基金というのがありまして、その募集とか成果発表会等で資金的な支援や発表の機会を設けておりますし、場合によりましては国や県の制度の利用も可能でありまして、随時紹介しております。今後もなお一層、こういった制度活用を呼びかけてまいりたいと思いますが、梅津議員には個別にそういった課題とか、こういった団体はこういったことを求めているんだよということを紹介いただけますれば、私どものほうでもぜひその辺はお手伝いをさせていただきたいというふうに思います。

例えば、古い例ですと、私の知っている範囲ですと、草岡ハムというのがあります。草岡ハムは、本当にこれはもう今から20年以上前、自分たちでそういう何か解決しようということで、６次産業化に踏み切ったわけですね。ですから、やっぱりそういった先達の人というか、リーダーといいますか、そういった人たちをいかに我々お手伝いしていくかということが一番重要だなというふうに思います。

なお、具体的な農商工に関する連帯の現状については商工振興課長から答弁いたさせます。

私のほうからは以上でございます。

○小関勝助議長　孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長　梅津善之議員の質問にお答えいたします。

特色ある農業施策についてということで、１番目のレインボープランを中心とした循環の農業についてということでございますけども、畜産農家などと連携し、レインボープラン堆肥を散布するシステムづくりというようなことでありますけれども、コンポストについては、平成24年度において米関係が14.9ヘクタール、穀類関係が5.7ヘクタール、野菜関係が3.6ヘクタールに使用されております。そのコンポスト散布におきましては、以前は市でマニュアスプレッダーを保有し、レインボープラン推進協議会との連携をしながら散布を行っていたようでありますが、現在はその機械もなくなったため、個々の農家の方々によって散布をいただいている状況であります。

水稲や穀類に使用については、各農家において畜産農家と連携しながら散布をし、野菜等の小規模な栽培については、手作業によって散布をなさっているというような状況でございます。

また、畜産堆肥の散布については、家畜排せつ物等が野外に保管することが制限された平成十六、七年あたりだと思いますけども、堆肥舎が義務づけられたときに、畜産振興、土づくり、さらには散布組織の育成を図るため、堆肥代や散布経費について３年間ほど補助を出していた時期があったようでございます。その後、ある程度定着した関係で、やめておりますけども、レインボープランのまちや環境保全型農業のまちを提唱するにおいて、土づくりは最も重要な一つであります。

今後、耕種農家の意向及び畜産農家の状況を調査しながら、どういった施策がいいのか、対応を検討してまいりたいというふうに考えております。

あと、先進農家におきましては、環境保全型農業直接支払いを活用いただいて積極的に取り組んでおられておりますので、それらの誘導策も含めて検討してまいりたいというふうに思っております。

また、それによって生産される米については、高く買うことができればよろしいわけでありますけども、堆肥散布や特別栽培については、なかなか有機栽培と違いまして、付加価値を高くつけるということはできない状況でありますけども、現在、今学校給食におけるレインボープラン米、あるいはＪＡ等が取り組んでおります生協のパルシステムの販売においてはプレミアムをつけた中で販売をやっているようでございます。

あと次に、（２）の稲作の特色づくりでありますけれども、人や環境に優しい安全安心なレインボープランのまちのイメージをもっともっと推進し、兵庫県豊岡市のようなコウノトリがすむまちのように、人や環境に優しいまちとして、市民や農業者が一体となって長井のブランドとして育てていくことが必要なのかなというようなことで考えておるところでございます。

以上でございます。

○小関勝助議長　鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長　梅津議員のご質問にお答えいたします。

１の（３）米づくりを観光に生かせないかということについてお答えしたいと思います。

米づくりは、大変有力な観光資源というふうに認識しております。ことしの５月22日に、九野本の農家、梅津一男さんのところで水田をお借りしまして田植え体験をさせていただきました。この日は仙台市の東仙台中学校から30人ほど子供たちが参加していただいたんですけれども、素足で水田に入って、素手で苗を植えるというようなことで、ぬかるみに足をとられながらも、大変一生懸命田植えをしていただきました。子供たちにとっても貴重な経験になったんじゃないかなと思います。学校のほうでもそういったところに力を入れているようでして、今回は必ず田植え体験を入れてくれというふうなご希望、学校側からありましたので、そういった教育的効果も高いようなので、非常に有効なのかなと思っております。

今回の議員の提案は、さらに一歩踏み込みまして、１年を通してということなものですから、種まきから収穫まで、全てやってもらうということで、大変意欲的な試みかな、提案かなと思います。環境に優しい農業をしていただければ付加価値が高まりますし、その様子をお客様に見ていただければ、さらに体験していただければ、その価値をよくわかっていただけるというふうなことで、大変いい試みかと思います。そうすれば、長井市に足を運んでいただく機会が何回もふえるわけですから、波及効果ということでも大変大きいものがあって、観光の面でも大変いいことだと思います。

影法師の遠藤孝太郎さんのグループがこれに近い取り組みをやっていらっしゃるのかなと思っております。影法師の皆さんは、ことし５月に田植え体験、それから９月に稲刈り体験をそれぞれやっていらっしゃいました。歌でもＰＲして、大変すばらしい活動をやっていらっしゃるなと思います。ですが、影法師さんは、田植えのほうもできますし、歌のほうもできるということですが、音楽的才能のない私ではちょっとまねができませんので、なかなかほかの人ができない部分、特技を使っていらっしゃるということで、影法師さんをそのまま私たちも一緒にまねてやるわけにはいかないということで、そこが難しいところなのかなと思います。

議員のご提案はいいところがたくさんあるわけでございますけれども、観光の面から見ると、ちょっと課題が少しあるのかなと思っています。一番の課題としましては、受け入れ体制ということがあるかと思います。一人ではできないと。仲間をたくさん集めてやらなきゃ受け入れができないというところが非常に難しい点かなと思っております。以上でございます。

○小関勝助議長　梅津和士商工振興課長。

○梅津和士商工振興課長　梅津善之議員のご質問にお答えさせていただきます。

私のほうからは、エコミュージアムという考え方についての中で、農業、工業、商業の連携などというようなことで、今議員がおっしゃいましたように、行政で異業種の方々などの話し合いの場を設け、地域づくり、地域力アップに生かせないかというふうなご質問にお答えさせていただきたいというふうに思います。

まず、人づくりや、先ほど市長がおっしゃいました地域づくりの視点につきましては、長井市第５次総合計画案の中で３つの重点戦略が上げられておりますけども、このうち、元気な人づくり戦略と活発な地域づくり戦略の中で、人づくり、地域づくりを取り組む計画が進んでおりますので、私のほうからは、産業による地域連携の現状について答弁させていただきたいというふうに思います。

地場産業の連携、農商工の連携につきましては、ここ数年で西置賜産業会、それからレインボープラン等の農業関係者や置賜農業高等学校との情報交換会、連携などの機会を設けてまい

りました。また、置賜総合支庁の産業経済企画課におきましても、６次産業化についての懇談会を開催されるなど、各産業の連携による新たな産業づくりを探ってきております。長井市としては、異業種交流機会創出事業ということを今取り組んでおりまして、オンリーワンものづくり事業ということで長井商工会議所との連携を今やっております。

具体的には、今現在、本市の経済に大きく波及するような成果はあらわれてはいませんが、一部には長井市を中心とした５つの酒蔵さんによる販路拡大事業や、菓子組合や異業種の団体による商品開発などで、話題性はもとより、販売についても今実績を残すような事業が少しずつ出てまいっております。

なお、工業分野でいきますれば、９月にもご答弁させていただきましたが、今、梅津議員からおっしゃいましたものづくりのまちというふうな観点から言うと、2018年に山形県で開催されます技能オリンピック山形大会に向けての取り組みについても重要だなというふうに考えております。

エコミュージアムの実践例といたしまして、都度取り上げられております、今議員がおっしゃいました朝日町では、大きな博物館、町全体が博物館、町民全てが学芸員というふうなキーワードでやっていらっしゃるというふうなことでございまして、朝日町のほうにお尋ねいたしましたところ、若干の、朝日町のエコミュージアム協会について、私のほうから朝日町の紹介をするのはおかしいかと思いますが、ちょっと感じたところをお話しさせていただきますと、朝日町では平成元年にエコミュージアム研究会ができたんだそうです。平成12年にＮＰＯ法人の朝日町エコミュージアム協会を設立いたしまして、同じ年の６月に町役場の隣に併設されています創遊館という施設がありますが、そこをエコミュージアムのコアセンターとして開店、オープンしたというふうなことでございます。その中に、館内にエコミュージアムコーナーという部屋がありまして、そこに職員が常駐しておりまして、水曜、木曜が一応定休日ということで、土日はいらっしゃるというふうなことで職員がいらっしゃいました。ちなみに、町からの委託事業だというようなことで、町からは年間200万円前後の委託費をいただいておりまして、そのほかに会員の会費収入や協賛金などで運営なされているというふうなことでございました。

横道にそれましたけども、このような考え方を長井市で実践しようとしていらっしゃる方、先ほど市長からもご紹介ありましたが、多くいらっしゃるのかなというふうに思っております。

今後とも、物産開発等にとどまらず、多様な産業づくりを応援すべく、活用できる制度や事例を紹介いたしたり、啓発活動などをして、機会を捉えて皆さんに周知を図りたいというふうに思っております。今後とも梅津議員からもいろいろなご提言をよろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

○小関勝助議長　２番、梅津善之議員。

○２番　梅津善之議員　それぞれ答弁ありがとうございました。

まず、私のほうから農林課長にお伺いしたいことがございます。

レインボープランがもう始まって16年目を迎えておりますし、現在までなかなかその生産物が上がってこない原因の一つは、やっぱり利用する方が少ないであるとかが思われますし、例えばその野菜づくりの小さな農家が手で振っていらっしゃるというのは、すごく小さな面積を営んでいる方が大事につくっていらっしゃるんだなということは十分理解できるわけですけども、例えばその給食であるとか何かに大量に使うように行政で仕組んでいくためにも、そのフルシステムを持っている。それも当然市民との

中で協力した体制の中で持っていくということが私は非常に大切なことだと思いますし、マニュアスプレッダーなり、さまざまな道具って結構高いんですよね。個人で購入するにもなかなか高額で、補助事業を受けたとしても500万円ぐらいのが250万円になるか、300万円ぐらいになるか、私ちょっとわかりませんけども、そういうことを行政でカバーして、どんな農産物、米に限らずですけども、レインボープランとして認証した野菜としてまちづくりに生かしていくことは非常に大切なことだと思うんです。そのフルシステムを、生産者なり、畜産農家ともタイアップしながら構築していくことが非常に大切でないかなという思いがあります。そうやって振った、振る面積をふやしていかないと、農産物はふえないと思いますので、ぜひそういうシステムをつくってもらいたいなと思うんですが、その辺、農林課長、いかがですか。

○小関勝助議長　孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長　レインボープランにつきましては、コンポストにつきましては、少量でございますので、小規模農家は手で振ったりしているようでございますけども、以前マニュアスプレッダーを市で買いまして、それで散布した時代があったわけでありますけども、ただ、どうしてもその市で購入して共同で使いますと、管理が徹底しないというようなことで、その責任の所在が見えてこないというようなことで、それはなかなか難しいのかなというふうなことで考えております。

また、やはり畜産農家にそういったマニュアスプレッダー等を普及して、その中で耕種農家と連携しながら振っていただくとか、そういった連携が必要なのかなと。そちらのほうがより効率的になるのかなというふうに思っておるところでございます。

また、なかなかレインボープランの農家につきましても、高齢化をするなりして人数も減っておりますし、面積も減っているという中で、ぜひ若い人にもそういったことで取り組んでいただきながら、また学校給食等へも納めていただきながら進めていきたいと思っているわけでありますけども、虹の駅さん等が中心になって学校給食のほうにはまとめて取りまとめをしているわけでありますけども、なかなか量が集まらない、また一定したものが集まらないというようなことで、大変苦労はなさっているようでございますけれども、今後ともレインボープラン推進協議会、あるいは虹の駅さんとも協力しながら、学校給食等へも普及を図りながら、生産拡大等結びつけてまいりたいというふうに考えております。

○小関勝助議長　２番、梅津善之議員。

○２番　梅津善之議員　ぜひ前向きに考えていただいて、多くの人を巻き込んで、そのレインボープランを理解していただいて、市民のまちづくりに生かしていただきたいと思いますし、生かさなきゃいけないと私は思って発言させていただいているわけです。今までもレインボープランについては、私自身の農業の思いも含めて、すばらしいと思っておりますし、ぜひ全体の中で広めて、その農産物がたくさん出て、給食なんかにはふんだんに使えるような体制づくりが、地元農家にも、地域の方にも、子供たちにも、そして長井市全体の環境にもいいと私自身も思っておりますので、ぜひ前向きに検討していただきたいなと思っております。

あわせてちょっと市長にお伺いしたいんですけども、例えばその今、マニュアスプレッダー、ちょっと高いなんて私、お話しさせていただいたんですが、それこそ例えば地元の中小企業の溶接屋さんとか鉄工所さんとかで、そんなにしないで多分つくれると私は思っているんですよね。そういうのの連携こそが、新しい、何というか、工業なり商品の開発につながっていくという考えもありますし、もう一つ言わせてもら

えれば、木、木質チップなり、11月の臨時会でも伊佐沢小学校の伐採木の利活用の仕方なんかもあったと思うんですけども、例えばまきストーブをつくれる中小企業さんなんか、市内にはたくさんあると私は思いますし、そのレベルも本当に職人わざみたいな方がたくさんいらっしゃる。ぜひそういうのをマッチングした中で、火事にとかならないような安心つきのまきストーブであるとか、そういうのの連帯をできるようなまちづくりが必要だと私は思っておりますけども、その辺は市長、どのようにお考えですか。

○小関勝助議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　梅津議員のお考えというのは、いいご提案だというふうに思いますが、まずレインボープランの農産物がなぜ広がらないのかという、そこの部分についてどういうふうにお考えになっていらっしゃるかですが、確かにこういったマニュアスプレッダーを、じゃ、用意したら広がるのか。そのレインボープランのコンポストですね。それとか堆肥なんかを、じゃ、広げれば、何でしょうかね、市で支援すればそれで広がるのか。それも大切な一つなのかもしれませんけども、やはりそれだけではないわけですね。議員からもご指摘のように、やはりいかに、じゃ、そういった農産物を高く、なおかつありがたく消費者の方は買っていただいて、消費いただくかということなんですけども、残念ながらそういったところがきちんとしたシステムとしてつくれなかったということがあります。

そんなことで、例えば来年度の新しい予算の中で、学校給食なんかでも今レインボープランの野菜をこういろいろやっていただいているわけですが、ぜひそういった積極的に、学校給食だけじゃなくて、市内のお店なんかも高く買うという、そういったところのシステムも一緒にやっていかなきゃいけないということですので、一つのご提言としては、これ検討しなきゃいけないというふうに思いますが、まず全体的にどうするかということをもう一度していかないとだめだと思います。

あと、レインボープランの里からという認証制度を設けて、これは直売所に出していただいた方ということになっていますけども、少なからずそれなりのメリットはあるんですよね。それでもなかなか広がらないというのは、やっぱり価格とか何かだけじゃないということもありますし、やはりそういったところをもう一回原因というものをよく考えなきゃいけないのかなというふうに思っています。

それから、２点目の部分の、例えばそういったマニュアスプレッダーとか、まきストーブとか、そういったものを市内の製造業の皆さんつくれる技術はいっぱいあるからやったらどうだと。それも大変いいご提言でございます。

以前からレインボープランのコンポストセンターが老朽化しております。ああいったものの機材というのは全部特注品なんですね。既製品の部分ももちろんあるわけですけども、特注品が多いので、それを全部地元でつくれないかということで、真剣に何年間も、地元の製造業、いろんな団体あります。商工会議所を中心に、長井機械協同組合さんとか、あと西置賜産業会さんとか、あるいはメカトロニクスさんとか、いろんなところに相談しましたが、残念ながら採算ベースに合うようにできないんですね。これ一つつくっただけではなかなか大変だと。やはりそういったところは、もう少し私どもでも研究しますけども、それぞれのものづくりを担っていただいている企業の皆さんのやはりそれとのマッチングですよね。そういったところが非常に難しいと。現に山大工学部と昨年度連携協定を結んだんですが、なかなか、１つ、２つはうまくいっていますが、マッチングできない部分たくさんあって、これをさらに詰めており

ますけども、そういったところで努力はしております。

したがって、今後引き続きそういった検討もしてまいりますが、連携、農工商の連携というのは、例えば６次産業化一つにしても、農家レストランなさっている方は、その人の一念発起なわけですよ。いろいろ努力されて。あと、伊佐沢の直売所なんかも、自分たちがリスクを負ってああいうふうになさっているわけですね。ですから、そういったことがないと、なかなか進まないのが現状で、そういったことを私どもはどういうふうにしてサポートするかというところで、もっともっと努力を重ねていかなきゃいけないというふうに思います。ぜひいろいろまたご提言をいただきたいと思います。以上です。

○小関勝助議長　２番、梅津善之議員。

○２番　梅津善之議員　ぜひ検討していただきたいものだと思います。

何といいますかね、これは地域性というんでしょうかね、私もそうですけども、非常にしょうしがりだという、恥ずかしがり屋で、何ていうかな、外交的でないというか、そういう地域性みたいなのがあるかどうかですけども、いいものを持っているんだけども、そのアピールできないとかということが往々にしてあるんですよね。ぜひそういうふうな殻を取っ払ってと言われても、地域性だからどうにもならないのかもわかりませんが、ぜひまちづくりに生かしていけたらなと思っておりますので、前向きにご検討いただきたいものだと思います。

もう一つ市長にお伺いします。

先ほど土地改良事業の話を、私、させていただきました。今、下九野本で、当然私のところも含みなんですけども、事業がもう少しで終わろうとしていまして、非常につらい大変な作業だった川払いの作業なんかは、すごく楽に、すばらしい区画になったのでありがたいなと思っております。

さらにその、何といいますかね、市内のもう30年先たっている、その土地改良終わっている農地なんですけども、用水路なんかももう壊れておりますし、排水路は非常に当時の土地改良化では、側板というか脇にコンクリートを埋めただけという形の排水路が多くて、埋まったり、水が流れなかったりしている状況がそちらこちらで見えますし、どうも早期に更新していかなければならないなと思っておりますけども、その財政上の負担が大変でその施工できないんだななんていうのは、非常に農家にとっても大変だし、非常につらい思いがあります。そこは効率的に進めるためにも、大区画でやっていくべきだと私は思いますし、農家の負担も一気にやったほうが少ないというのはそれは明確であります。

現在も土地改良区に納めるお金が払えないような農家もたくさんいるとお聞きしておりますし、なかなかその辺も大変だなと思っております。米値段が２万円から今は１万幾らですかね。財政的にも大変なのはわかりますけども、効率的に進めるには、土地改良事業も進めていかなければならないと思っておりますが、この辺は市長、どのようにお考えか、もう一度お願いしたいと思います。

○小関勝助議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　梅津議員おっしゃることもよくわかりますし、土地改良事業、特に野川土地改良区間内はもう30年どころか50年たっているところもあるわけですから、やっぱりそういったことが喫緊の課題だということは承知しております。

問題は、国のほうのそういった米政策が今後どのように進む、変わっていくかということと、その土地改良事業について、いろんなシステム、制度があるわけですけども、現在、我々市町村で大きな課題になっているのは、いわゆる水路

を暗渠化して、基本は１ヘクタールの水田の区画、しかも畦畔も極力つくらないようなタイプのやり方というのが今後これ、進めざるを得ないだろうというふうに必要性はよくわかります。そういった場合、その負担、現制度ですと１割が市町村負担だと。7.5％ぐらいが受益者負担ということになっているようなんですが、その中で、多分長井市内の水田3,000ヘクタールぐらいあるんですが、うち、条件のいいところだけやったとしても、2,000から2,500ヘクタール分は必要だろうと。そういった場合に、じゃ、所要額が事業費ベースでどのくらいかかるかというと、恐らく、はっきりわからないんですが、数百億円はかかります。500億円、600億円という話もありますし、１割ですと50億円、60億円が長井市の負担なわけですね。そうしますと、これはほかの公共事業なんていうものじゃないわけですよ。10年間でやる長井市の公共事業が、例えば庁舎も含めれば、100億円から150億円、200億円、どのぐらいになるかわかりませんけども、　500億円ですから、ですからそういうふうに考えますと、やっぱり私どもとしては国に対して、我々はぜひ農家のほうの支援もしたいし、あと安定的な米の生産、あるいは農産物の確保のために、ぜひこれはきちっともっと手厚い支援をということで要望してまいりたいと、そのように考えているところです。

○小関勝助議長　２番、梅津善之議員。

○２番　梅津善之議員　やっぱり財政負担は大変だと私も思いますし、これからどうなるかわからないその米の値段に、区画整理をして維持していくんだという考え方も、なかなか大変なことだなと私自身も思いますし、そこで担う農家ですらも、悩んだり苦しんだり多分しているんではなかろうかと思っております。

　ぜひその地域の方々と話し合った上で、大変な中でも前向きに検討されていただきたいものだなと。これはあくまでもお願いでございます。ご検討していただきたいと思います。

　以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○小関勝助議長　以上で一般質問は全部終了いたしました。

散　　会

○小関勝助議長　本日はこれをもって散会いたします。

　ご協力ありがとうございました。

午後　０時００分　散会